

令和 7 年台東区観光統計・マーケティング分析結果について

1 分析の概要と調査データ

(1) 概要

訪日外国人旅行者数は過去最高を記録しており、本区においてもインバウンドを中心に観光は活況を呈している。こうした観光の現況を把握するとともに、今後の観光施策にいかすため、令和 7 年の本区における観光統計の推計・算出及び観光客のマーケティング分析を実施した。

(2) 調査対象期間

令和 7 年 1 月から 1 2 月まで

(3) 調査データ

ア. 来訪者パラメータ調査（区実施）

イ. モバイルデータ（ドコモ・モバイル空間統計）

ウ. 旅行・観光消費動向調査／インバウンド消費動向調査／宿泊旅行統計調査（観光庁実施）

エ. 観光地点等入込客数調査（東京都実施）

2 結果（概要）

令和 7 年の本区を訪れた観光客数は、前年比 4 % 増の 4, 2 8 7 万人となり、モバイルデータによる推計に変更して以降、最多を記録した。日本人観光客数はほぼ横ばいで、外国人観光客数は約 1 7 % 増となっている。

観光消費額は、1 人当たりの消費額が 1 2, 2 4 3 円で前年比 2 4. 3 % 増と大きく伸び、1 人当たりの消費額及び年間観光消費額ともに過去最高を更新した。

滞在時間と宿泊日数については、大きな変化はないが、海外在住者の 5 泊以上の宿泊割合は 0. 8 % 増となり、近年増加傾向がみられる。

3 結果（主な観光指標）

(1) 観光客数の推計

		令和 7 年	前年比	令和 6 年
年間観光客数		4, 2 8 7 万人	1 0 4. 0 %	4, 1 2 1 万人
内 数	日本人観光客数	3, 5 3 8 万人	1 0 1. 7 %	3, 4 8 0 万人
	外国人観光客数	7 4 9 万人	1 1 7. 1 %	6 4 0 万人

(2) 観光消費額の推計

	令和7年	前年比	令和6年
年間観光消費額	5,249億円	129.4%	4,058億円
1人当たりの消費額	12,243円	124.3%	9,847円

(3) 滞在時間（日帰り客）

	令和7年	令和6年
平均滞在時間	4.42時間	4.40時間

(4) 宿泊日数

区分	都内在住者	都外在住者	海外在住者
1・2泊	99.3% (0.1%)	96.0% (0.1%)	42.1% (-0.7%)
3・4泊	0.7% (—)	3.8% (-0.1%)	37.4% (-0.1%)
5泊以上	0.1% (—)	0.2% (—)	20.5% (0.8)

()内は前年からの増減

4 今後の対応

本分析結果は、区内の観光団体をはじめ産業団体や宿泊施設等に広く情報提供する。また、観光客の受入環境の整備を進めつつ、本区の観光における効果的な観光施策の実施に向けて活用する。

令和7年 台東区観光統計・マーケティング分析 報告書－概要版－

別添1

1. 分析の概要と方法

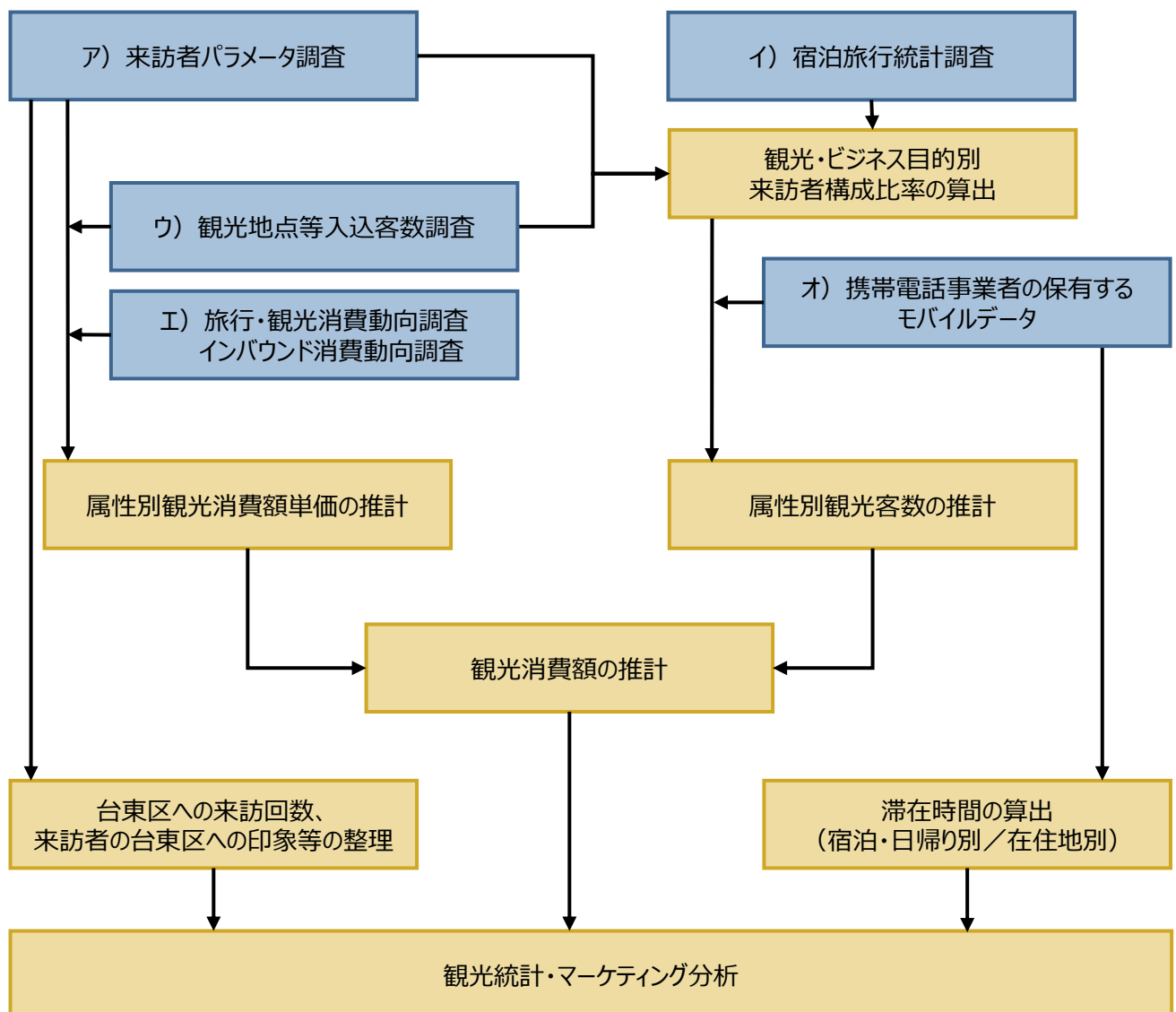
(1) 概要

本調査は、原則として令和7年1月～12月における台東区の年間観光客数、観光消費額等の推計及び来訪者のマーケティング分析を行い、観光施策を立案する基礎資料とするものである。

(2) 方法

観光客数、観光消費額については、観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準及び調査要領」に基づき、来訪者パラメータ調査（台東区来訪者へのアンケート調査）及び各種統計データを用い推計を行った。
また、台東区来訪者へのアンケート調査結果をもとに、マーケティング分析を行った。

① 調査フロー



■ 調査・データ部分 ■ 推計・分析部分

② 調査内容

ア) 来訪者パラメータ調査

観光客数及び観光消費額を推計するためのパラメータの算出およびマーケティング分析のため、区内来訪者に対しアンケートを実施しました。

【調査項目】

来訪者属性（居住地、性別、年齢）、来訪目的、同行者、来訪回数、利用交通機関、観光消費額、満足度、印象、再来訪意向等

【調査実施時期・回数】

令和7年第1四半期～第4四半期、計4回実施

【調査地点】

上野地区（上野公園案内所付近、アメ横（上野側））
浅草地区（浅草寺宝蔵門前）
谷中地区（谷中銀座付近）
浅草橋地区（JR浅草橋駅東口付近）

【サンプル回収数】

総数4,309（国内在住者2,156 海外在住者2,153）

イ) 宿泊旅行統計調査

観光庁が実施した宿泊旅行統計調査の内、台東区内における結果の提供を受け、宿泊客における居住地別の観光目的とビジネス目的の構成比を算出した。

ウ) 観光地点等入込客数調査

東京都が実施した観光地点等入込客数調査の内、台東区内における結果の提供を受け、属性（宿泊・日帰り、居住地、観光目的・ビジネス目的）の構成比及び属性別の消費額単価を求める際に、ア) 調査の地点別サンプル数とウ) 調査の客数の整合を図るための拡大係数を算出するために使用した。

エ) 旅行・観光消費動向調査及び訪日外国人消費動向調査

観光庁が実施した旅行・観光消費動向調査及び訪日外国人消費動向調査における消費額単価について、前回調査時（令和6年）からの比率を算出し、台東区内における属性別観光消費額単価を推計した（一部属性において使用）。

オ) 携帯事業者の保有するモバイルデータ

携帯電話事業者の保有する人流データを取得し、台東区への移動人口、滞在人口を把握することにより、居住地（都内・都外・海外）別、宿泊・日帰り別の観光客数を推計した。また、同データより、観光客の台東区内での滞在時間を算出した。

※ア) 令和2年から4年については観光庁及び東京都の調査データにより推計を実施

オ) 令和3年よりモバイルデータを活用し観光客数の推計を実施

2. 台東区の観光客数

令和7年の台東区の年間観光客数（実人数）は4,287万人（内、年間外国人観光客数は749万人）と推計された。前回調査（令和6年）と比べると、年間観光客数は166万人の増加、年間外国人観光客数は109万人の増加となった。

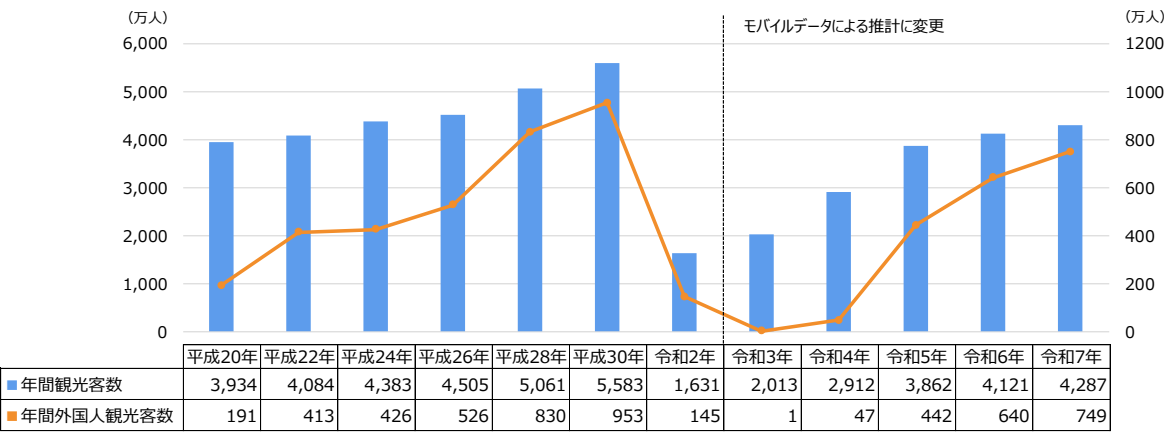
コロナ禍前の平成30年に対し、年間観光客数は76.8%、年間外国人観光客数は78.6%まで回復する結果となった。

図表1 年間観光客数（実人数）の推計

	令和7年	令和6年比	令和6年
年間観光客数	4,287 万人	104.0 %	4,121 万人
内、日本人観光客数	(3,538万人)	(101.7%)	(3,480万人)
内、年間外国人観光客数	749 万人	117.1 %	640 万人
内、年間宿泊数	563 万人	106.1 %	531 万人
内、年間外国人宿泊数	249 万人	115.5 %	216 万人

※ 数字の単位未満は端数処理をしているため、表中の数字と合計が一致しない場合がある。（以下同様）

図表2 年間観光客数と年間外国人観光客数の推移



3. 台東区の観光消費額

令和7年の台東区の年間観光消費額は5,249億円、1人当たりの観光消費額は12,243円と推計された。前回調査（令和6年）と比べると、年間観光消費額は1,191億円の増加、1人当たりの観光消費額は2,396円の増加となった。

観光消費額単価を属性別に見ると、都内在住者の日帰り客（観光目的）5,261円に対し、都外在住者では6,770円、海外在住者では16,622円と、居住地が遠くなるほど来訪者の観光消費額単価が上がる傾向にある。

宿泊客（観光目的）についても同様の傾向にあり、都内在住者では16,055円、都外在住者では34,953円、海外在住者では69,691円と大きく増加している。

図表3 年間観光消費額の推計

	令和7年		令和6年
		令和6年比	
観光消費額	5,249 億円	129.4%	4,058 億円
1人当たりの消費額	12,243 円	124.3%	9,847 円

図表4 属性別の観光消費額単価

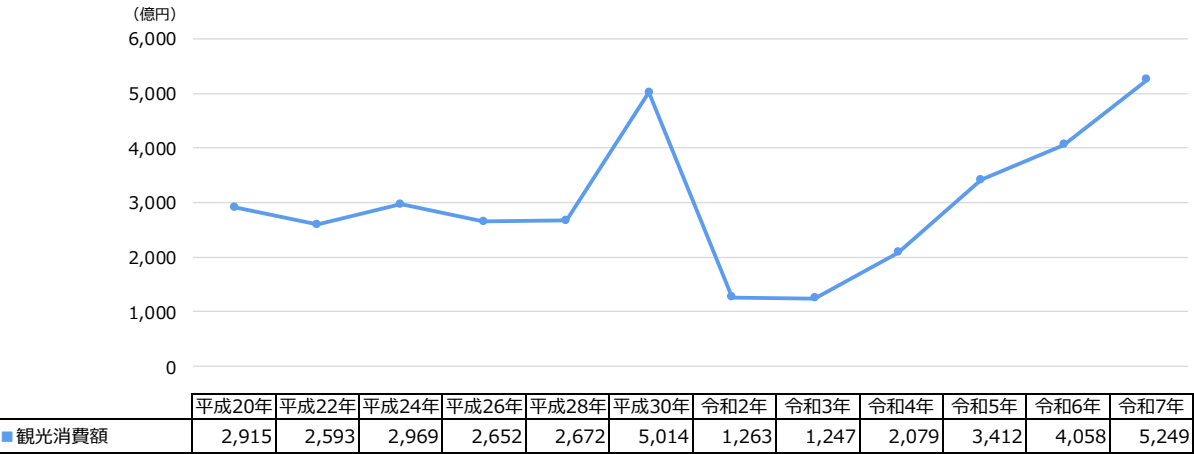
区分	日帰り客		宿泊客	
	観光目的	ビジネス目的	観光目的	ビジネス目的
都内在住者	5,261 円	1,643 円	16,055 円	27,008 円
都外在住者	6,770 円	7,522 円	34,953 円	27,278 円
海外在住者	16,622 円	12,021 円	69,691 円	37,980 円

図表5 属性別の観光消費額計

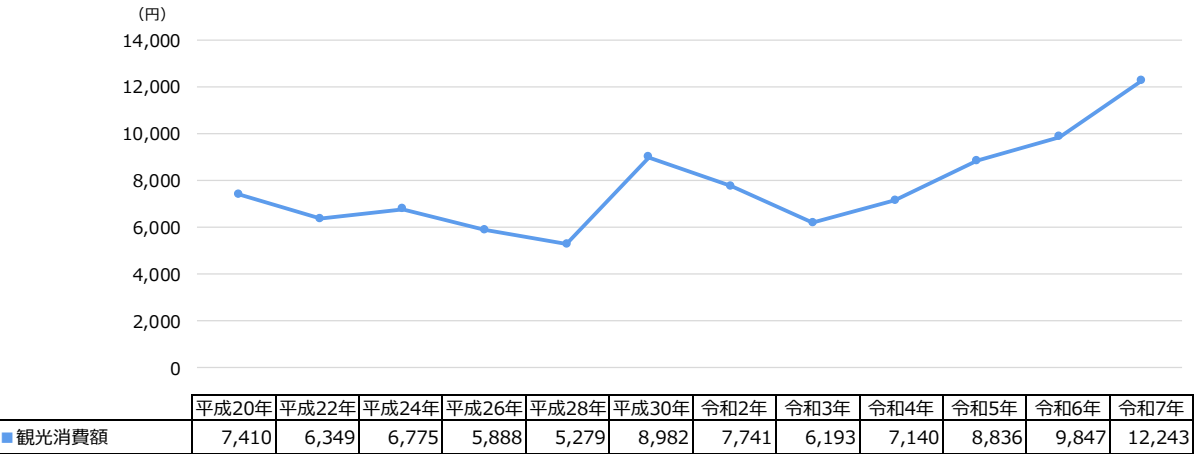
（百万円）

区分	日帰り客		宿泊客		計
	観光目的	ビジネス目的	観光目的	ビジネス目的	
都内在住者	71,342	357	6,243	10,186	88,129
都外在住者	107,382	19,570	46,470	28,497	201,919
海外在住者	81,302	1,307	126,387	25,869	234,865
計	260,027	21,234	179,099	64,552	524,913
	281,261		243,652		

図表6 年間観光消費額の推移（台東区全体）



図表7 観光消費額の推移（1人あたりの単価）



4. 台東区内の滞在時間／台東区内の宿泊日数

日帰り客の台東区内の平均滞在時間について、都内在住者は4.52時間、都外在住者は4.44時間、海外在住者は4.07時間となっている。いずれの在住者においても、2～4時間の滞在が最も多く、8時間未満の滞在が9割以上を占めており長時間滞在していない。

宿泊数については、都内在住者は1.05泊、都外在住者は1.23泊、海外在住者は3.22泊となっている。宿泊日数別割合においては、都内在住者と都外在住者の9割以上が1～2泊であるが、海外在住者は5割以上が3泊以上の宿泊となっている。

図表8 台東区内平均滞在時間・平均宿泊日数

※（）内は令和6年の値

区分	全体	都内在住者	都外在住者	海外在住者
日帰り客	4.42時間 (4.40時間)	4.52時間 (4.51時間)	4.44時間 (4.41時間)	4.07時間 (3.99時間)
宿泊客	2.09泊 (2.00泊)	1.05泊 (1.05泊)	1.23泊 (1.23泊)	3.22泊 (3.18泊)

図表9 日帰り客の滞在時間別割合

※（）内は令和6年の値

区分	都内在住者	都外在住者	海外在住者
2～4時間	52.5% (52.8%)	54.1% (54.8%)	59.4% (61.3%)
4～6時間	28.2% (28.0%)	27.0% (26.7%)	25.0% (24.5%)
6～8時間	11.0% (10.8%)	11.1% (10.9%)	11.6% (10.9%)
8時間以上	8.3% (8.3%)	7.7% (7.6%)	3.9% (3.3%)

図表10 宿泊客の宿泊日数別割合

※（）内は令和6年の値

区分	都内在住者	都外在住者	海外在住者
1泊	96.2% (96.0%)	82.5% (82.3%)	20.1% (20.5%)
2泊	3.0% (3.2%)	13.5% (13.6%)	22.0% (22.3%)
3泊	0.5% (0.6%)	3.0% (3.1%)	21.0% (21.1%)
4泊	0.1% (0.2%)	0.8% (0.8%)	16.4% (16.4%)
5～7泊	0.1% (0.1%)	0.2% (0.2%)	17.3% (16.8%)
8泊以上	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	3.2% (2.9%)

5. 台東区内各地区への来訪回数

台東区への来訪について「初めて」と答えた人は、都内在住者が5.6%、都外在住者が15.1%、海外在住者が65.7%であった。4回目以上の来訪の割合は、都内在住者が80.6%、都外在住者が61.8%、海外在住者が9.1%となっている。

調査地区への来訪回数では、「初めて」の来訪は、谷中地区が他地域と比べて高く、都内在住者は約2割、都外在住者は約半数、海外在住者では約8割が初めての来訪となっている。一方で、4回目以上の来訪は、上野地区、浅草橋地区が他地域と比べて高く、両地区とも都外在住者の約半数が4回以上訪れている。

図表11 台東区への来訪回数

区分	内訳		
	都内在住者	都外在住者	海外在住者
初めて	5.6%	15.1%	65.7%
2回目	3.9%	10.4%	17.0%
3回目	9.8%	12.7%	8.3%
4回目以上	80.6%	61.8%	9.1%

図表12 上野地区への来訪回数

区分	内訳		
	都内在住者	都外在住者	海外在住者
初めて	4.8%	18.7%	67.8%
2回目	4.8%	12.0%	15.6%
3回目	11.1%	12.9%	7.6%
4回目以上	79.3%	56.4%	9.0%

図表13 浅草地区への来訪回数

区分	内訳		
	都内在住者	都外在住者	海外在住者
初めて	9.1%	25.3%	73.2%
2回目	8.0%	17.6%	16.2%
3回目	16.5%	15.4%	5.2%
4回目以上	66.5%	41.7%	5.4%

図表14 谷中地区への来訪回数

区分	内訳		
	都内在住者	都外在住者	海外在住者
初めて	23.4%	52.0%	80.6%
2回目	11.2%	16.9%	9.8%
3回目	14.2%	9.6%	4.8%
4回目以上	51.3%	21.5%	4.8%

図表15 浅草橋地区への来訪回数

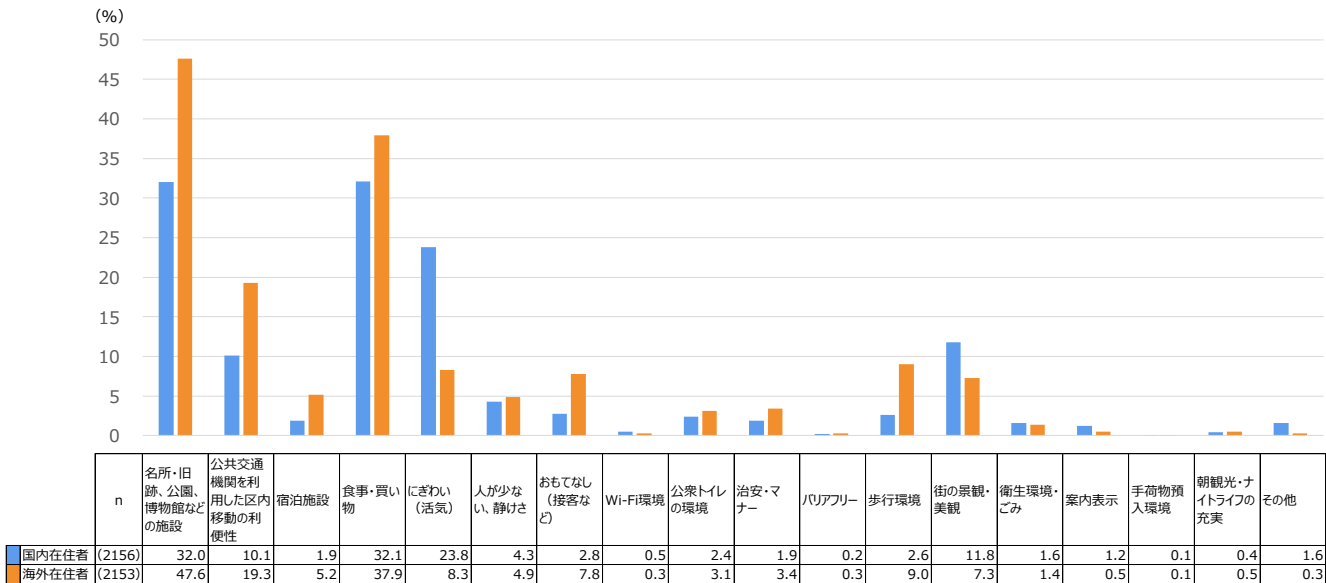
区分	内訳		
	都内在住者	都外在住者	海外在住者
初めて	14.0%	25.4%	68.8%
2回目	8.3%	11.9%	17.8%
3回目	12.4%	7.8%	5.6%
4回目以上	65.3%	54.9%	7.9%

6. 来訪者の台東区の印象

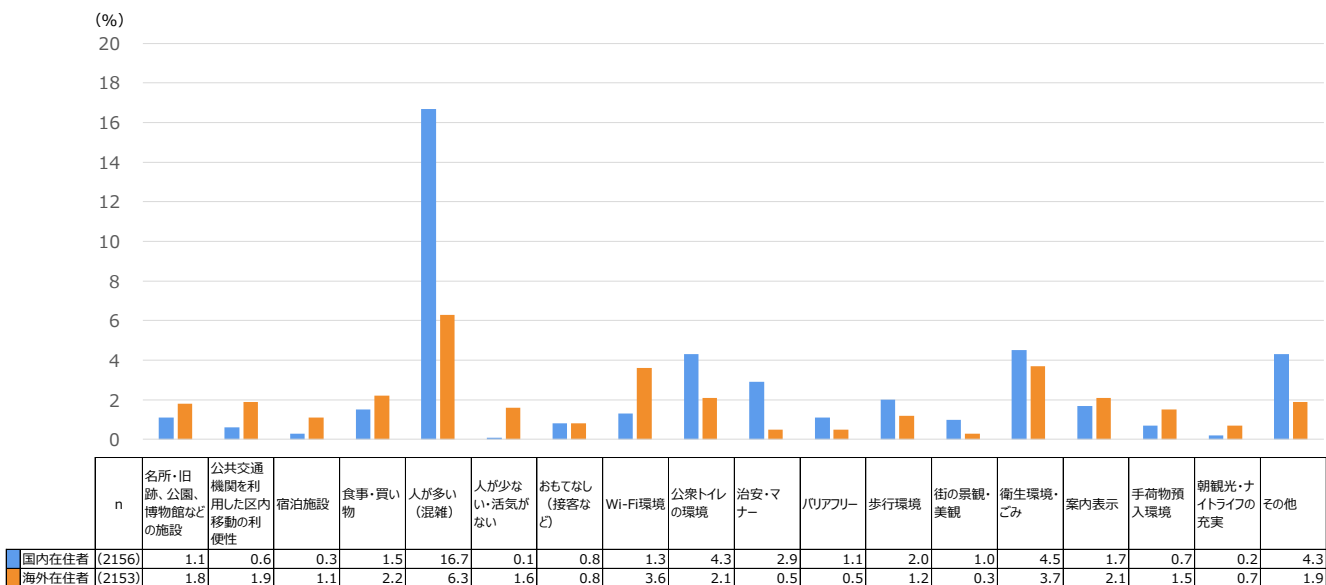
来訪者の台東区の印象として良かったことについて、国内在住者は、「食事・買い物」が32.1%が最も高く、次いで、「名所・旧跡、公園、博物館などの施設」が32.0%、「にぎわい（活気）」が23.8%と続いている。海外在住者は、「名所・旧跡、公園、博物館などの施設」が47.6%と最も高く、次いで「食事・買い物」が37.9%、「公共交通機関を利用した区内移動の利便性」が19.3%と続いている。国内在住者と海外在住者いずれにおいても「食事・買い物」と「名所・旧跡、公園、博物館などの施設」が上位となっている。この上位2つは令和5年の調査と同じ結果となっており、令和7年調査の結果ではそれらの割合がさらに高くなっている。

一方、残念だったことについては、国内在住者は、「人が多い（混雑）」が16.7%と最も高く、次いで「衛生環境・ごみ」が4.5%、「公衆トイレの環境」が4.3%と続いている。海外在住者は、「人が多い（混雑）」が6.3%と最も高く、次いで「衛生環境・ごみ」が3.7%、「Wi-Fi環境」が3.6%と続いており、国内在住者と海外在住者のいずれも人の多さや混雑に対するマイナスな印象が見受けられる。令和5年の調査と比較すると、令和7年調査の国内在住者では「人が多い（混雑）」と回答した割合が高くなっており、コロナ禍を経て観光客が増加したことが影響しているとうかがえる。

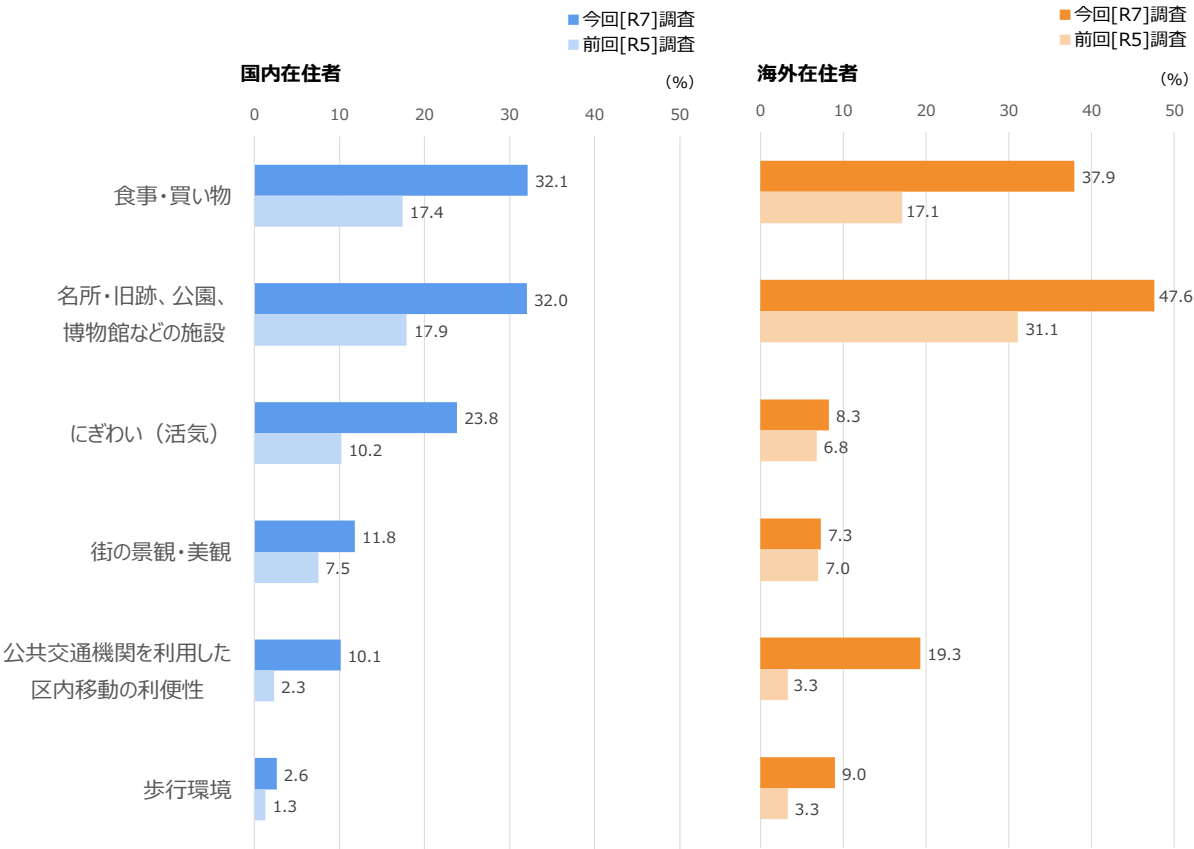
図表16 良かったこと（国内在住者・海外在住者） ※複数回答可



図表17 残念だったこと（国内在住者・海外在住者） ※複数回答可



図表18 良かったこと（令和7年調査・令和5年調査 ※主な選択肢のみ）※複数回答可



図表19 残念だったこと（令和7年調査・令和5年調査 ※主な選択肢のみ）※複数回答可

